兵庫県教育委員会　令和元年度完了報告書

１．調査研究概要

（１）調査研究内容

カリキュラム・マネジメントの三つの側面を踏まえ、研究テーマａ「学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現」、研究テーマｂ「学習の基盤となる資質・能力の育成」、研究テーマｃ「現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成」について、実践校３校を指定し、学校ごとに以下のａｂｃの重点テーマを定め、各校の選択した研究テーマ（重点テーマ）に関する取組を各項目の主たる実践事例として掲載する「カリキュラム・マネジメントの手引き」の作成を行う。そのため、本年度、有識者を加えた「カリキュラム・マネジメント検討会議」を設置し、事業全体の計画、実施、評価、検証を行うとともに、実践校にも「カリキュラム・マネジメント委員会」を設置し、検討会議の有識者を交え、テーマに沿ったより深化した調査研究を実施した。

研究体制

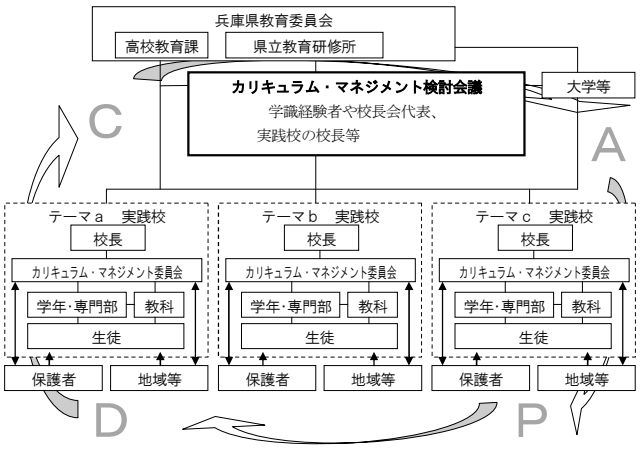
カリキュラム・マネジメント検討会議

学識経験者や校長会代表、実践校の校長等を中心に構成し、事業全体の計画、実施、評価、検証を行う。

カリキュラム・マネジメント委員会

（各校に設置）

校長のリーダーシップの下、学識経験者も加え、校内におけるカリキュラム・マネジメントの展開する。



（カリキュラム・マネジメント検討会議の構成）

No.	氏名	所属・役職等
1	村川　雅弘	甲南女子大学教授
2	赤沢　早人	奈良教育大学教授
3	池田　匡史	兵庫教育大学助教
4	中野　卓哉	兵庫県立姫路北高等学校・校長
5	増田　憲	兵庫県立姫路北高等学校・教諭
6	西川　雅秀	兵庫県立北条高等学校・校長
7	阿佐　浩道	兵庫県立北条高等学校・教諭
8	中村　稔	兵庫県立尼崎稲園高等学校・校長
9	三木　康史	兵庫県立尼崎稲園高等学校・教諭
10	北川　真一郎	兵庫県立学校長会教育課程委員会委員長 （兵庫県立夢野台高等学校長）
11	桂　敦子	兵庫県教育委員会事務局高校教育課参事
12	神戸　剛	兵庫県立教育研修所高校教育研修課長
13	村本　由佳	兵庫県立教育研修所情報教育研修課長

※３名の学識経験者が、ａｂｃの各テーマの担当となり、各実践校の指導・助言にあたる。
※会議の内容に応じて、外部講師を加えて検討会議を開催する。

ａ　学校の教育目標等（目指す生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現

～兵庫県立姫路北高等学校の実践（定時制普通科）～

①　学校の基本方針と経営戦略の構築
・学校の現状分析
・強みを生かした経営戦略の構築

②　学校におけるグランドデザインの策定
・学校の目指す実社会で活用できる４つの資質・能力(学力・協調性・主体性・社会性)
・『自己の学びのカリキュラム・マネジメント』の実現に向けて

③　グランドデザインに基づく教育活動の在り方
・自己肯定感・自己有用感を育む教育活動の推進
・地域や企業等との連携による外部人材の活用

ｂ　学習の基盤となる資質・能力の育成

～兵庫県立北条高等学校の実践（全日制普通科）～

①　学校の基本方針、グランドデザインに基づく目指すべき資質・能力
・義務教育段階における学習の基盤となる資質・能力
・高校入学後の育成すべき資質・能力

②　単元や題材など内容やまとまりを見通した指導計画
・国語科を中心とした発達段階に応じた言語活動の指導の手法
・基盤となる資質・能力に基づく各教科の指導計画の作成

③　生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実施
・義務教育段階における主体的・対話的で深い学びの状況
・義務教育段階の取組を活かした高校における主体的・対話的で深い学びの推進

ｃ　現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成

～兵庫県立尼崎稲園高等学校の実践（普通科単位制）～

①　高等学校における教科横断的な視点
・学習指導要領の現代的な諸課題の視点からの見直し
・「総合的な探究の時間」を中心に据えた教科横断的な取組

②　「知の総合化」に向けた取組

・現代的な諸課題に対応するための資質・能力

・「知の総合化」という視点を持った生徒の育成に向けた現代的諸課題の追究

（２）成果と課題　（カリキュラム・マネジメント検討会議より）（○：成果，●：課題）

＜姫路北＞

○アンケートを基に、学校のグランドデザインを構築し、育成したい生徒の資質・能力を明確にした研究授業を行うことができた。

○公開用指導案を教科科目の内容を細かに記載するスタイルから、「学力」「協調性」「主体性」「社会性」の４つの観点でのより具体的な取組内容を示すものに変更した。

○研究授業後の協議で、発問の在り方や教科科目の内容を越えた生徒への関わり方などの大切さへの気付きなど、教員の生徒に対する姿勢に変化があらわれた。

○普段の教育活動の中でＰＤＣＡが回せるようになってきた。

●アンケートを強みとして、アンケート→指導→評価の流れを構築し実践につなげる。

●指導案の簡略化とともに全体計画を示すことで、授業改善の効率化を図る。

●他教科の取組をどのように自分の教科の取組に生かしていくかという視点での授業評価シートの活用を進める。

＜北条＞

○カリキュラム・マネジメントの体制の整備を進めることができた。

○グランドデザインに基づいた研究授業や学校行事の見直し等を行った結果、教員が生徒のどの資質･能力を育成するのかということを意識した仕掛けを作ることの大切さを感じた。

○知識技能、思考・判断・表現、態度など、項目ごとのレーダーチャートを作成し、授業改善に生かすように工夫することができた。

●言語とＩＣＴ活用を中心に行っているが、言語活動の育成を中心に取り組むことも必要。

●教科指導のカリキュラム・マネジメントとして、シラバスと授業評価アンケートを授業研究によって繋ぐ取組を図ること。

＜尼崎稲園＞

○対話的ではなく、教授型の授業を行っている教科が多かったが、今回の指定により教員の意識改革が進みつつある。

○各教科でそれぞれ生徒に与えている学習課題の見直しを行い、家庭学習のマネジメントを行うことができた。

○１年生の総合的な探究の時間を用い、「知の総合化」ファイルを作成する教科横断的な取組を進めることができた。

●生徒へのアンケートの回数を精選し、整理して分析することが必要。

●学んだことを付箋に書き留め、ノートに貼るときに分類わけをする２段階で活用し、総合化ノートの活用方法を明確に示すこと。

＜本県の取組＞

○３校それぞれが課程や地域性を異にする特徴を持ち研究を進めており、地域としての取組としては、今後、他校の参考となる事例を集めることができるのではないか。

○学校内にとどまらず、地域の企業や中学校等と連携をとり、それぞれが地域に根ざした活動に取り組んでおり、「地域に開かれた教育課程」を意識した取組となっている点が評価できる。

●学校全体の取組にまで至っていないので、中堅教員とベテラン教員をどのように巻き込むか、その仕掛けを考えていく必要がある。

●他県での取組で、ベテランが中心となり授業改善を行った事例もあるので、このような取組について情報収集し、指定校間で情報共有する等、指定校間の連携をさらに密にすべき。

●手引きの作成は次年度になるが、各校が活用しやすいようリーフレットの様なものに纏め発信していく方が効果的である。

上記の様に本県の取組内容については「カリキュラム・マネジメント検討会議」において学識経験者等から一定の評価をいただいた。次年度については、検討会議において指摘を受けた課題を踏まえて、さらに研究を深化させ「手引き」の作成につなげていく。

（実践地域における年間実施スケジュール）

月	取組内容
5月	**第１回カリキュラム・マネジメント検討会議**（5月 29 日） ・本県の県立高校におけるカリキュラム・マネジメントの取組 ・これまでの教育課程の編成に関する成果と課題 ・カリキュラム・マネジメントの在り方、教職員の意識改革、研修の手法等
6月	
7月	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修参加（各校担当者） カリキュラム・マネジメント委員会（各校）
8月	先進校視察（各校）
9月	尼崎稲園高校視察（9月 17 日）村川教授による生徒研修
10 月	**第２回カリキュラム・マネジメント検討会議**（10 月 24 日） ・調査研究の進捗状況と今後の展開 ・各実践校における取組や課題の報告 ・１年目の成果物、指定校以外への発信と普及
11 月	カリキュラム・マネジメント委員会（各校） 姫路北高校視察（11 月 7 日）学校訪問指導 北条高校視察（11 月 11 日）授業研究会 全国指導主事研究協議会総則部会（11 月 25 日） 事例発表（姫路北高校）
12 月	先進校視察（各校） カリキュラム・マネジメント指導者養成研修参加（県教委指導主事）
1月	中間報告書の作成（各校）
2月	**第３回カリキュラム・マネジメント検討会議**（2月5日） ・各校の取組の検証と次年度に向けた展望
3月	

２．調査研究の内容

実践校【兵庫県立姫路北高等学校】

（１）　研究テーマ

☑　a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究

☐　b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究

☐　c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

（２）　調査研究の内容

①　目指すべき生徒の資質・能力の策定（平成30年度）

本調査研究実践校として指定を受ける前年度に「目指す生徒像」というテーマで職員研修を実施した。生徒の良い点や悪い点を話し合う中で、生徒にとって必要な資質・能力は「学力」「協調性」「主体性」「社会性」の４つに重点に置くという合意形成を図った。

②　本校生徒の特性の把握（令和元年７月）（資料１）

生徒の特性を客観的に把握するために、生徒にアセス調査（集団と生徒個人のアセスメントソフト）を実施した。全年次において共通して「向社会的スキル」「友人サポート」「生活満足感」の値が低いことが分かった。自尊感情育成を基盤に「協調性」「主体性」「社会性」育成の必要性を認識した。

③　グランドデザインの作成（令和元年７月）

管理職、職員で協議しながらグランドデザインを作成した。校訓「自主協同」「愛知創造」の具現化のための「ビジョン」と「目指す生徒像」、「育成したい資質・能力」を明示した。その取組の場面を①教科指導、②特別活動、③部活動、④その他の場面とすることで学校教育活動全体にわたる活動、かつ教科横断型の活動として取り組むことを共通理解した。

④　評価・改善のためのアンケート調査（令和元年７月）

○　目指すべき生徒の資質・能力の伸長度を測るためのアンケートとして、以下の３種類を実施した。生徒・保護者の回答率は、回収アンケート数÷在籍生徒数（403名）で算出した。

・「生徒」が自ら求める資質・能力(24項目)　　(回収334枚　回答率83%)

・「保護者」が生徒に求める資質・能力(24項目)（回収391枚　回答率97%)

・「関連企業」が生徒に求める資質・能力(14項目)についてアンケート
(回収26社中22社　回答率85%)

生徒・保護者については現在の生徒の資質・能力の認識度について、企業については生徒に求める力について４段階で回答を得た。今年度末、更に２年後にも実施し、数値の変化を今後の取組の改善に活用していく。

○　アンケート結果について、生徒が卒業までに身につけておきたいレベルと、生徒の現段階のレベルの差を項目ごとに集計した。差が大きい項目ほど、保護者・生徒が必要と捉えている力と解釈した。保護者・生徒ともに「学力」「主体性(困難に立ち向かう力等)」の差が大きく、自尊感情を高めることで主体性も伸びるのではないかと議論した。

一方、企業が生徒に求める力は「学力」よりも「社会性(ルールを守る力、相手の話を理解する力等)」が優位であった。本校では授業中の私語や携帯電話の使用が問題となっており、「社会性」向上に向けて取組を考えていく必要性を再認識した。

⑤　学識経験者と地域人材の活用

本校のカリキュラム・マネジメント委員会の委員長に奈良教育大学教授　赤沢早人氏、委員に辰巳運輸株式会社総務部労政課課長　北爪健一氏を迎えた。

令和元年９月５日に第１回委員会を開催し、赤沢委員長から生徒の「主体性」に働きかけることで自信や誇りを育成できること、北爪委員からは「コミュニケーション力」が仕事をしていくうえで最も重要な生きる力となることを教示していただいた。

⑥　資質・能力育成のための具体の取組（資料２）

今年度は「社会性」の向上を優先事項とし、４つの資質・能力の育成を図った。学校生活の大部分を占める授業の中での取組みを議論する中で、先ずは公開授業を活用した育成のための実践を行った。

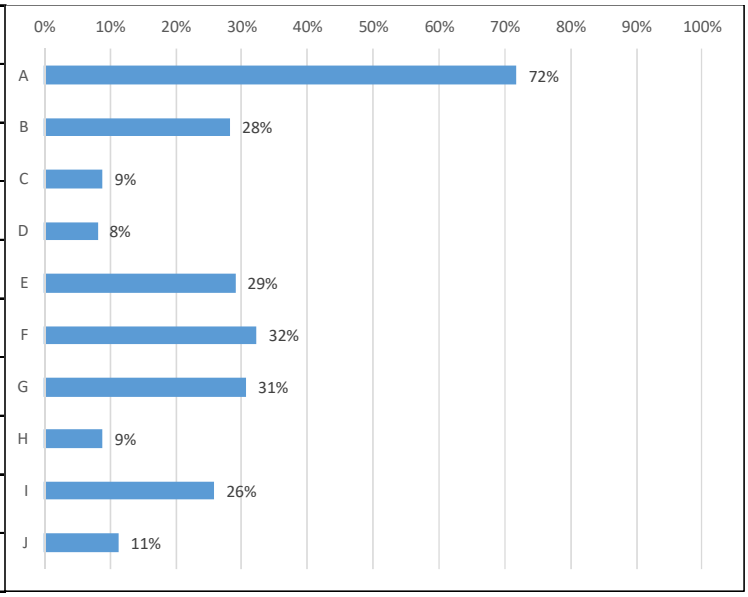
○　授業実態把握のためのアンケート調査（令和元年10月、12月）

生徒に対して授業態度に係るアンケート調査を10月に実施した。なぜスマートフォンを使用するのか、スマートフォンの授業中の使用状況をどう思うか等を尋ねた。周囲への迷惑を考えていない使用理由や、無関心な回答が多く見られた。

12月には時間講師も含め、全職員に授業で困難を感じていることについてアンケートを実施した。携帯電話の使用、私語等の指導に困難を感じている回答が多く見られた。

アンケート結果を受けて、生徒の「社会性」を授業で身につけるための取組を議論した。わかりやすい授業、生徒の参加活動をより多く取り入れる等、様々な視点が共有され、その視点で公開授業に取り組むことになった。

Q2		
使用する理由	A	暇な時間がある
	B	授業が理解できない
	C	注意されない
	D	何をすればいいかわからない
	E	周りに迷惑をかけない
	F	友達と連絡するため
	G	授業内容を調べる
	H	休み時間から継続して使用
	I	他の生徒も触っている
	J	授業を聞かなくても理解できる



スマートフォン使用についてのアンケート（一部抜粋）

○ 「社会性」向上に向けた公開授業（令和元年11月と令和２年１月に各１週間）

代表職員８名が公開授業を実施し、公開授業週間後、職員研修を実施した。授業実施者も授業見学者も生徒の授業態度の改善を実感出来たため、実践の効果は高いと判断した。次年度は一層の資質・能力向上につなげるために全教員で公開授業に取り組むことになった。

⑦　評価と改善（令和２年２月）（資料３）

令和元年７月に実施した生徒の資質・能力の度合いを測るアンケート調査から半年程度で、今年度の実践を通して生徒の資質・能力に認識の変化があるのか把握するため、同じ質問内容で全生徒にアンケートを実施した。残念ながら、卒業までに身につけたい力の上位項目についても、現段階で身についていると考える力のレベルについても有意な変化は見られなかった。取組の期間が短かったことや、取組が授業に限定されたためである考える。年間を通して様々な場面で取り組むことで改善を図る必要があると考える。

（３）　調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

①　成果について

〔生徒に対する成果〕

a　生徒が社会で自立して生きていくために、４つの資質・能力の向上が大切であることを認識出来た。

b　資質・能力向上のために自分自身の行動の改善点を見つめることが出来た。

c　公開授業では、積極的に授業に参加し、落ち着いた態度で受講する生徒も多く見られ、社会性の向上が図られた。

〔保護者・地域に対する成果〕

a　本校の教育課程を理解してもらうことが出来た。

b　保護者・地域の意見を取り入れながら協働して教育活動が実践出来た。

〔教員に対する成果〕

a　生徒・保護者・地域の求める生徒像を把握することが出来た。

b　教育課程を職員全員で、保護者・地域と協働して改善することが出来た。

c　公開授業を通して、生徒の資質・能力の育成に当事者意識を持って取り組むことが出来た。

②　課題と改善について

a　４つの資質・能力の育成については２月のアンケート結果から十分に図れたとは言えない。次年度は教員全員が資質・能力育成のための公開授業に取り組む。また公開授業週間を従来の前期１週間、後期１週間から回数や期間を倍以上に増やし、一層の効果を図る。

b　今年度は授業の中での実践が主で、その他の場面での実践には及ばなかった。次年度は集会や体育大会、文化祭等の学校行事で、スマートフォンの使用について周囲に迷惑をかけない行動がとれるよう取組を推進する等、授業以外の教育活動での取組を実践していく。

c　教員が生徒の社会性向上のための授業環境づくりを推進してきたが、次年度は生徒自身が４つの資質･能力を向上させるための取組やルール作りに主体的に取り組めるよう働きかけていく。

（４）　実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
５月	29 日(水)第１回カリキュラム・マネジメント検討会議［県教委］ 「実践校による取組」
６月	19 日(水)カリキュラム・マネジメント打合せ会［県教委］
７月	30 日(火)第１回カリキュラム・マネジメント職員研修会
８月	先進校視察（三重県立鳥羽高等学校）
９月	２日(月）第２回カリキュラム・マネジメント職員研修会 ５日(木)第１回県立姫路北高等学校カリキュラム・マネジメント委員会 第１回県立姫路北高等学校カリキュラム・マネジメント研修会 25 日(水）第３回カリキュラム・マネジメント職員研修会
10 月	16 日(水）第４回カリキュラム・マネジメント職員研修会 24 日(木)第２回カリキュラム・マネジメント検討会議［県教委］ 「調査研究の進捗状況と今後の展開」
11 月	25 日(月）令和元年度高等学校各教科等教育課程研究協議会　総則部会 (国立青少年教育振興機構国立オリンピック記念青少年総合センター)
12 月	12 日(木）第５回カリキュラム・マネジメント職員研修会
１月	８日(水）第６回カリキュラム・マネジメント職員研修会
２月	４日(火）第７回カリキュラム・マネジメント職員研修会 ５日(水)第３回カリキュラム・マネジメント検討会議［県教委］ 「各校の取組の検証と次年度に向けた展望」
３月	４日(水)第２回県立姫路北高等学校カリキュラム・マネジメント委員会 第２回県立姫路北高等学校カリキュラム・マネジメント研修会

実践校【兵庫県立北条高等学校】

（１）　研究テーマ

☐　a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究

☑　b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究

☐　c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

（２）　調査研究の内容

①　資質・能力の育成を目指す教育のための準備

a　グランドデザインの策定（資料１）

教育目標の共有と資質・能力の育成を主眼とする教育を展開するために、グランドデザインの策定に取りかかった。作成済みの「平成31年度学校経営の重点等」で示された目指す生徒像を元に、全教職員で検討して育成する資質・能力を具体化させ、実際の教育活動とリンクをさせる形でグランドデザインを策定した。

資料1

兵庫県立北条高等学校グランドデザイン2019

目指す生徒像	甘えを捨てて厳しく自分を律し、仲間とともに自らを高め合える生徒 自立して自らの志や夢の実現に努力し、未来を自分で切り拓いていく生徒 創造性やチャレンジ精神を持って、地域社会や国際社会に貢献しようとする生徒

育成を目指す資質・能力

知識・技能的側面			思考力・判断力・表現力的側面			学びに向かう力・人間性的側面		
①基礎力 「生きる力」の基礎となる知識・技能を身に付けたり、情報を集めたりする力	②発見力 状況をよりよくしていくために、現状から課題を察知することができる力	③試行力 課題に対して、様々な手法を用いて、試行錯誤する力	④探究力 物事に疑問や興味を持ち、知識・技能を用いて深く探究する力	⑤発信力 課題発見から解決までの過程を取りまとめ、発信したり、啓発したりする力	⑥実践力 知識・技能を元に準備し、その場の相手や状況等に応じて実際に対応する力	⑦統率力 物事や行動について決定し、人をまとめ、他者と力を合わせてやり遂げる力	⑧創造力 獲得した知識・技能を元に必要なもの、新たなものを創り出す力	⑨未来力 未来の姿を見据えて、自らを律して自己実現を図ろうと活発に活動していく力

主体的・対話的で深い学び

実際の教育活動

	国語	地歴・公民	数学	理科	保健体育
各教科	語彙の習得① 心情の理解・共感④⑨ 論理的思考②③④⑦ 伝統的言語文化の理解①④⑧ グループでの探究⑤⑥⑦ 言語による表現⑤⑧⑨	資料の読解① ハイスクールタイムズの活用② 表・グラフ・データの活用④ グループディスカッション④⑤ プレゼンテーション⑤ 国民としての自覚⑨ 文化の尊重⑨	図やグラフの作製① 多面的・多角的考察③ 総合的・発展的考察④⑥ 論理的に説明する⑤ グループワーク⑤⑦	見通しを持った観察・実験③⑥ 観察・実験から得たデータの活用③④ グループワーク⑤⑦	心身の健康を保持増進、体力の向上① 生涯を通して楽しめる運動の技術習得③④ 健康安全についての理解① 自らの健康を適切に管理⑨
	芸術	**外国語**	**家庭**	**情報**	**創造**
	意図に基づいた表現技能① 創造的な表現の工夫⑥ 芸術を味わう④ 芸術を愛好する心情⑧ 豊かな情操⑨	語彙力・言語運用能力① 情報収集と読解④ 英語でのプレゼンテーション⑤ ペア・グループによる学習⑦	生活における諸問題の解決②⑥ よりよい生活を営む工夫⑥⑧ 生活文化の継承と創造①⑤⑧	情報の主体的な収集・判断・処理① 情報の発信・伝達⑤ 法律・規則やマナー⑥ 科学的見方・考え方④⑧	論理的思考トレーニング①②③ 探究活動④⑥ 探究活動の発表⑤ アドベンチャークラブボランティア⑦⑧⑨

教科外				
	総合的な探究（学習）の時間	１年　進路探究ワーク②③　探究活動④⑤　主体的な活動⑧⑨ ２年　論理的思考①④　文章による表現③⑤　探究活動④⑤　主体的な活動⑧⑨ ３年　自分を表現する③⑤　探究活動④⑤　主体的な活動⑧⑨	部活動	運動部集会⑦　キャプテン会議⑦　AED講習②⑥　奉仕活動⑥⑦　物事に取り組む姿勢・努力の過程⑦⑨　各部間での繋がり⑦⑨
	学校行事	式典⑥⑦⑨　文化祭③⑤⑦⑧　体育大会⑥⑦⑧　球技大会⑥⑦⑧　修学旅行②⑥⑦　校外研修②⑥⑨　防災訓練②⑥⑦　各種講演会①④⑨　クリーンキャンペーン②⑥⑦　マラソン大会⑥⑨	ホームルーム活動	学年集会②⑨　文化祭・体育大会準備②③⑤⑥⑦⑧　生徒会役員選挙②⑤　進路HR①②④　人権HR①②④
	その他	ボランティア活動②⑥⑨　POWER UP学習①②⑨　アフタースクールゼミ①②⑨　海外研修（オーストラリア・タイ）⑤⑥⑨　JAXA訪問②④⑨　体験活動⑥⑨　地域ふれあい公開講座⑥⑦		

支援　貢献：保護者・PTA　加西市　加西商工会議所

連携：兵庫教育大学

学びの連続性の確保：加西市教育委員会・市内四中学校

b　年間指導計画・シラバスへの「育成する資質・能力」の明記（資料２・３）

年間指導計画に育成する資質・能力とその評価の方法を明記するようにした。また、生徒に示すシラバスにも同様の項目を設けることで、生徒への意識付けを図った。

② 授業のＰＤＣＡサイクルを展開するための整備

a　年間指導計画の「反省」欄の拡充（資料２）

従来の「反省」欄を拡充し、「今年度の評価と次年度に向けた改善案」欄に改めた。３学期に全教員が自身の授業の振り返りをし、同項目を記入した。合わせて、改善された来年度計画案の作成を行い、来年度の担当者はそれをベースに年間指導計画を確定することとした。

b　生徒の授業評価アンケートの見直し（資料４）

教員の授業スキルに偏重していた質問項目を見直し､学力の３観点が育成できているか、　授業の目標やねらいが明確になっているか、学びの振り返りの機会があるか等の項目を追加した。また、思考力・判断力・表現力を測定するツールが未整備な中で、このアンケートをツールの一つとして活用することとした。

③ 公開研究授業の改善と資質・能力の育成を目指す教育の試験的な実施（資料５）

公開研究授業を教育の質の転換を促す機会とし、グランドデザインの試験的運用も踏まえて改善に取り組んだ。研究テーマの統一、「育成する資質・能力」と「授業の工夫点」の学習指導案への明記、授業参観の視点を示したワークシートを配付、研究協議報告書の作成と情報共有をおこなった。

④ 加西市教育委員会・市内４中学校との連携強化

a　中学校の研究授業への本校教員の参加

加西市内４中学校合同で実施している研究授業に本校教員が参加することとした。参加した教員は報告書を作成し、その集約したものを全教員に配布して情報を共有した。

b　本校の公開研究授業への中学校教員の参加

以前から本校の公開研究授業には市内中学校の教員に参加を依頼していたが、生徒の様子を見るだけでなく、授業改善についての意見を求めた。

c　カリキュラム・マネジメント委員会の開催（資料６）

兵庫教育大学の池田匡史助教を委員長に迎え、さらに加西市教育委員会・市内４中学校からも委員を選出し、カリキュラム・マネジメント委員会を中高連携推進の場と位置付けた。12月に委員会を開催し、調査研究の概要や今年度の取組について報告し、委員の先生方から意見を聴取した。なお、委員会の開催に先立ってアンケートを実施、中学校の学びの様子を調査し、調査研究の材料とするとともに情報共有し、中学校におけるカリキュラム・マネジメントにも生かすにした。

⑤ 先進校視察

a　広島県立広島高等学校（資料７）

中高連携の在り方や授業改善について視察をおこなった。

b　三重県立川越高等学校（資料８）

カリキュラム・マネジメントや授業改善の在り方について、本校と似た特徴を持つ同校を視察した。

（３）　調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

①　成果について

カリキュラム・マネジメントの基盤は整備された。来年度から本格的に資質・能力の育成を主眼とした教育や授業改善のＰＤＣＡサイクルが展開できると考えている。

②　課題と改善策について

教育の質の転換に対する教員への意識付けが課題である。公開研究授業等の機会を利用し、実践の中で呼びかけをしていったが、来年度の本格的な実施を控え、さらに教員への意識付けが必要だと考える。また、授業以外の教育活動についての改善も課題である。学校行事の実施要項の見直しや、事前・事後指導の充実により、教員・生徒双方が資質・能力の育成のための学びであることを意識できる仕掛けを作ること、実施後の評価と改善の活動を充実させることでＰＤＣＡサイクルを確立させることが必要である。

さらに、研究テーマである「学習の基盤となる資質・能力」の研究があまり進展できていない点も課題である。どのように研究を進めるのかを明確にした研究計画を示し、具体的に何をすべきかを明らかにし、全教職員で取り組む体制を整えることが必要である。

（４）実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
６月	グランドデザイン検討①（資質・能力の具体化についてのワークショップ） 先進校視察①（広島県立広島高等学校）
７月	生徒授業評価アンケート（改善前のものを利用） 加西市中学校保健体育科授業研究会参加
８月	
９月	職員研修（主担当の研修成果の発表、今後の方針の提案）
10 月	グランドデザイン検討②（各教科で育成する資質・能力を検討） グランドデザイン 2019 完成 加西市中学校英語科授業研究会参加 加西市中学校数学科研修会参加 公開研究授業（国語・地歴公民・数学・保健体育）
11 月	公開研究授業（理科・外国語） 先進校視察②（三重県立川越高等学校）
12 月	生徒授業評価アンケート（改善したものを利用） カリキュラム・マネジメント委員会
１月	今年度の授業の評価と来年度に向けた改善の検討
２月	職員ワークショップ（生徒の実態を見出す） グランドデザイン 2019 の見直しとグランドデザイン 2020 の完成
３月	

実践校【兵庫県立尼崎稲園高等学校】

（１）　研究テーマ

☐　a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究

☐　b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究

☑　c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

（２）　調査研究の内容

①　先進校視察

a　岩手県立盛岡第三高等学校（資料１）

今後カリキュラム・マネジメントを通して、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を初め、補習・宿題・小テストなどの振り返りも含め、様々な取組を進めていく必要を感じた。

b　広島県立広島高等学校（資料２）

2015年にスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受けて、本年度が最終年度である。グローバル化に対応した教育を実践しており、英語教育に重点を置いている。さらに伝統文化の継承、ことばの教育の推進、海外修学旅行・海外語学研修・海外姉妹校留学を四本柱にグローバル化に対応した教育をしている。

c　奈良市立一条高等学校（資料３）

ICT 機器の面では、奈良市教育委員会のバックアップもあり、大変充実していると感じた。全HR 教室や特別教室に Wi-Fi アクセスポイントやプロジェクタが設置してあり、生徒が授業中にスマホやタブレットを使える環境が備わっていた。本校では ICT 機器をそろえて、授業を展開していくのは難しいかもしれないが、今後、効果的に ICT 機器を使っていく授業の在り方についての研究の必要性を感じた。

②　中学校視察（中高連携）

先進校視察を通じて、盛岡三高の経営企画課長から小学校や中学校ではすでにアクティブ・ラーニングを実践しており、近隣のモデル校への見学は参考になるとの助言を受けて、中学校の授業研究会に参加し、中高連携による授業改善の在り方を研究する。

10/ 2　　尼崎市内中学校教科研究会参加

10/16　　尼崎市立園田中学校研究授業参加

10/18　　伊丹市立南中学校研究授業参加

③　カリキュラム・マネジメント委員会の開催

甲南女子大学の村川雅弘教授を委員長とし、近隣のＳＳＨ指定校である県立尼崎小田高等学校の教員を委員として迎え、ＳＳＨで培った探究的な学びの実践も含めた教科横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメントの実践を目指した組織作りを進めている。

また、本校の委員を中心に各種研修、研究授業への参加機会を増やし、様々な情報を収集し、これらの成果を学校全体で情報共有し、各授業に反映できるよう授業改善を進めている。

④　授業改善検討委員会の立ち上げ

各教科を代表する若手教員で構成する授業改善検討委員会を立ち上げ、研究を積み重ね、全教員にＩＣＴ機器を用いた効果的な授業を提案する。また、評価方法の研究にも着手し、授業改善を図っている。

スマートフォンを活用した授業（総合的な探究の時間）

⑤　グランドデザイン作成委員会の立ち上げ

各教科を代表する中堅教員で構成するグランドデザイン作成委員会を立ち上げ、本校が育てたい資質・能力を８つのキーワードで表すことを研究し、グランドデザインを作成した。

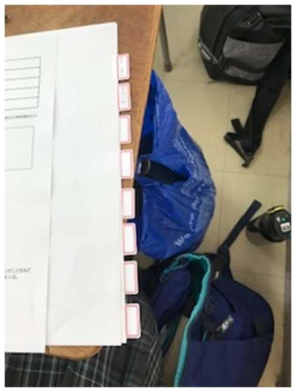
		項目	内容
	①	知力	知識・技能を活用して、学びに向かう力やこれからの人学新入試に対応する力
	②	表現力	自分の考えを、状況や目的に応じて的確に相手に伝える力
	③	行動力	自分の掲げる目的を達成するために、主体的かつ計画的に実行する力
1		愛され力	自然と応援したくなるくらい一生懸命で素直さに溢れ、他人や地域から信頼される力
2		遂行力	失敗しても、その経験を活かしやり遂げる力
3		協働力	共に生きる社会における課題解決のために、相互に補い合い高めあう力
4		健康力	心と体を良好な状態にするために、自分で考え、調整する力
5		貢献力	常に周りのために何が出来るかを考え、属する集団や社会のために行動する力
6		受信力・発信力	周囲の言動を真摯に受け止め、建設的な姿勢で自ら周囲へ広げる力
7		省察力	経験を振り返ることで自分を理解し、次の行動につなげる力
8		責任力	自分で発した言葉や行動を、自分で引き受けられる力
9		選択力	選択する自由とそれに対する責任を考え、よりよい選択・判断をする力
10		対応力	どんな状況でも柔軟に対応し、適切な行動がとれる力
11		批判力	問題解決のために自ら考え、広く深い理解と健全な考えを述べる力
12		論理力	複数のデータや事実から、自分の考えを筋道を立てて構築する力

※五十音順

備考：上位5位を決定します。同数の場合は、グランドデザイン作成委員会で決定します。
決定した8項目に番号（順位）をつけて公表するかどうかについては、カリマネ委員会と協議します。

⑥　「知の総合化」ファイルを作成

１年次生を対象に「知の総合化」ファイルを作成させた。日々の授業の中で、また生活の中で学んだこと、感じたこと、疑問点などをその都度メモすることにより、生徒は思考を言語化し、整理することができ始めている。



⑦　生徒の学習状況の見える化

グループウェア上で各教科・科目の小テスト・課題の予定を教員間で見える化し、生徒への課題をマネジメントして平準化することで、学力向上に繋げている。

課題情報共有シート

課題情報　共有シート　　カリマネ委員会

教科	国語	出題者	AAA
講座名	国語総合		
配布日	9月4日(水)	提出日	9月11日(水)
種類	週末課題	観点	知識・理解
内容	問題集P.25～30を解く		
期待する効果	考察力と表現力の育成		
解答に要する時間	60　～　90分		

小テスト入力用シート

No	教科	出題者	講座名	実施日始	実施日終	実施時間	観点	解答時間（分）	ねらい
1	数学	AAA	数学Ⅰ	9月2日(月)	9月6日(金)	授業	知識・理解	10	公式を用いての解法が身についているか確認
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									

（３）　調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

①　成果について

先進校視察や中学校への授業見学を通して、若手教員を中心にカリキュラム・マネジメントを通した授業改善や学校改革への意識の高まりが見られ、今後、生徒の資質・能力を伸ばすＰＤＣＡサイクルの確立を目指す素地が生まれつつある。

②　課題と改善策について

中堅教員やベテラン教員の中には、授業改善への意識の低い者も多いため、今後、カリキュラム・マネジメントに関して、より職員間の共通理解を進めることができるよう、グランドデザインを作成し、育成すべき生徒の資質・能力を意識した授業改善を進めていく必要がある。このために、教務・ガイダンス・進路指導の３部の連携強化により、各分掌が連携することにより学校改革を推進する。

（４）実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
５月	実践校に決定
６月	甲南女子大村川教授と打合せ／カリキュラム・マネジメント委員会設置
７月	職員研修（村川教授）／つくばカリキュラム・マネジメント指導者養成研修参加
８月	岩手県立盛岡第三高等学校、広島県立広島高等学校視察
９月	１年次生徒対象カリキュラム・マネジメント講演会（村川教授）
10 月	「知の総合化」ファイル作成
11 月	授業改善検討委員会立ち上げ／奈良市立一条高等学校視察
12 月	グランドデザイン作成委員会設置
１月	グランドデザイン作成委員会報告
２月	東京都立日比谷高等学校視察
３月	総合的な探究の時間全体発表会英語プレゼンテーション（延期）

３．実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

（〇：成果，●：課題）

＜実践地域全体としての成果や課題＞

今年度は、課程の異なる３つの高校に、それぞれ育成したい生徒の資質・能力を明確にしつつ、学校のグランドデザインを作成し、そのグランドデザインに基づいた授業改善、学校行事の内容の検討等を、教科横断的に行った。各校では、それぞれ育成したい生徒像がことなることから、それぞれの取組にも個性が見られるようになった。

各学校に共通した、成果と課題についてはカリキュラム・マネジメント検討委員会で以下のような意見や提言を受けた。

〇「目指す資質・能力」について、教職員の共通理解が図ることができた。

〇地域（保護者・地域企業）が生徒に求める資質・能力について、アンケートを通して情報収集することができた。

〇グランドデザインを職員全体で考えることで、これまでの各部での取組の方向性を学校として統一する必要性を認識することができた。

〇各校の教育活動に地域の意見・助言を取り入れることで、地域と学校が協働して教育活動を推進出来た。

●教員の意識改革を行うには、トライアンドエラーの結果（学習者の試行錯誤）を示すことが必要。

●カリキュラム・マネジメントを普段の授業にどのような形で落とし込むか。また、研究授業が特別なものでないような体制づくりが必要。

●実際に取組を進める場合は、「視野は広く、視点を狭く、具体的に」。

●次年度の取組に向けて以下の点を意識すべき。

・実践はクリエイティビティ（創造制）に焦点化して。

・アンケートだけでなく、取り組んだ実感が持てるような工夫を。

・持続可能性をもつこと（普段の授業で普通にできるように）

＜実践地域全体としての改善方策＞

これらの提言を踏まえ、次年度は、各学校において全職員の取組となるよう進めるとともに、３校それぞれの特色を踏まえ、学校におけるカリキュラム・マネジメントを５段階のレベル（①学校レベル、②各教科等のレベル、③学年レベル、④学級レベル、⑤生徒一人ひとりの学びのレベル）で捉え、それぞれのレベルにおいて学校の課題を解決し、教育目標を達成していく営みのサイクルを生み出すことを目指していく。その中で、①では学校経営計画やグランドデザイン、②では学習活動や教員組織、③では学年としての生徒育成、④では実態を踏まえた学級経営等、各段階での改善を図ることにより、⑤の生徒一人一人に、自分自身で将来像を思い描き、身に付けたい資質・能力などの目標を設定させ、その実現をめざして生活したり、学んだりする力、すなわち『自己の学びのカリキュラム・マネジメント』を育むことができるよう、指定校３校の実践をより深化させ、持続可能なカリキュラム・マネジメントの確立に向けた取組を進めていく。

４．参考資料

①　カリキュラム・マネジメント検討会議資料
第１回　令和元年　５月２９日（水）
第２回　令和元年１０月２４日（木）
第３回　令和２年　２月　５日（水）

②　県立姫路北高等学校資料
資料１　カリキュラム・マネジメント研修職員アンケート
資料２　携帯電話の使用に関するアンケート
資料３　生徒の資質・能力の度合いを測るアンケート

③　県立北条高等学校資料
資料１　兵庫県立北条高等学校グランドデザイン２０１９
資料２　年間指導計画
資料３　講座概要（シラバス）
資料４　授業に関するアンケート
資料５　航海研究授業資料
資料６　拡大カリキュラム・マネジメント委員会資料
資料７　広島県立広島中学校・高等学校視察報告
資料８　三重県立川越高等学校視察報告

④　県立尼崎稲園高等学校資料
資料１　岩手県立盛岡第三高等学校視察報告
資料２　広島市立広島高等学校視察報告
資料３　奈良市立一条高等学校視察報告